

国指定文化財

1木造薬師如来坐像(1軀)

神積寺開山である慶芳上人自らが彫り、安置したと伝えられています。神積寺の本尊で、60年に1度開帳される秘仏です。像高88.5cm。作風は温雅このうえなく、この地方の藤原仏を代表するものです。(※非公開)

●指定別／国 ●種別／重要文化財(彫刻)  
●所在地／福岡市東田原1891  
●指定年月日／明治34年8月2日 ●お問合せ先／悟真院

県指定文化財

2石造鳥居(1基)

沓石を用いておらず、高さの割合に比べて幅が広く、柱の内転もない造りは比較的古いタイプの鳥居といえます。柱の銘文から慶長16年(1611)につくられたことがわかります。また、この鳥居は姫路城主の命により奉献したと伝えられ、石橋や社殿とともに岩尾神社の往時を示す遺品となっています。

●指定別／県 ●種別／重要有形文化財(建造物)  
●所在地／福岡市東田原1935-1 ●指定年月日／昭和44年3月25日  
●お問合せ先／無野神社

3石橋(1基)

岩尾神社前の小川にかかる、反り橋式の石橋です。当初は両側に勾欄があったようで、親柱のさし込み穴が残っています。刻銘はみられませんが、様式から岩尾神社の石造鳥居と同時期につくられたのではないかと考えられています。

●指定別／県 ●種別／重要有形文化財(建造物) ●所在地／福岡市東田原1935-1  
●指定年月日／昭和45年3月30日 ●お問合せ先／熊野神社

4岩尾神社本殿(1棟)

正暦2年(991)、慶芳上人が神積寺を開基する際に、本神社へ文殊像を合わせまつたと伝えられています。極彩色で桃山時代の余風を伝え、細部手法もその頃の技風を示しています。明暦元年(1655)、寛政9年(1797)、文化2年(1805)などの修理を経て今日に及んでいます。

●指定別／県 ●種別／重要有形文化財(建造物) ●所在地／福岡市東田原1935-1  
●指定年月日／昭和58年3月29日 ●お問合せ先／熊野神社

5石造五重塔(1基)

神積寺西方の丘上に建ち、慶芳上人の墓と伝えられています。総高241cmの凝灰岩製で、軸部の3面には薬師彫りで種子が、1面には墨書が残ります。無紀年ですが、鎌倉時代中期のものと考えられています。

●指定別／県 ●種別／重要有形文化財(建造物)  
●所在地／福岡市西田原752  
●指定年月日／昭和44年3月25日 ●お問合せ先／悟真院

6三木家住宅(9棟)

主屋・副屋・離れ・内蔵・米蔵・酒蔵・角蔵・表・裏門の9棟が県指定文化財。創建当初の姿をよく残した大庄屋遺構です。主屋の建築年代は宝永2年(1705)で、「日本民俗学の父」柳田國男や銀の馬車道のかかわりも深い文化財です。保存修理工事を経て、平成29年度から主屋部分を展示施設として公開しています。

●指定別／県 ●種別／重要有形文化財(建造物)  
●所在地／福岡市西田原1106 ●指定年月日／昭和47年3月24日

7柳田國男生家(1棟)

江戸時代中期の建築と考えられ、「田の字型」民家で日本民家の原初形態です。國男は著書「故郷七十年」でこの家を「日本一小さい家」といい、「この家の小ささ、いう運命啊、私の民俗学への志も源を発したといってよい」と記しています。元は辻川街道に面していましたが、昭和48年に現在地に移築されました。

●指定別／県 ●種別／重要有形民俗文化財  
●所在地／福岡市西田原1038-12 ●指定年月日／昭和47年3月24日  
●お問合せ先／柳田國男・松岡家記念館

8旧神崎郡役所(1棟)

明治19年(1886)、神東・神西郡役所(明治29年に神崎郡役所と改称)として建設され、以後、当地方発展の中心的役割を果たしました。昭和57年に現在地に移築・復元し、神崎郡歴史民俗資料館として開館しました。ギリシャ建築様式を取り入れたすぐれた明治建築です。

●休館日／月曜・祝日の翌日・12/28～1/4 ●開館時間／9:00～16:30 ●入館料／無料  
●指定別／県 ●種別／重要有形文化財(建造物)  
●所在地／福岡市西田原1038-12  
●指定年月日／昭和62年3月24日 ●お問合せ先／神崎郡歴史民俗資料館

9かくしほちよじ

一般的には「とんど」として知られる行事で、鍛冶屋地区で古くから行われています。組織をつくり役割を決め、合計9人の「とう」で行事が仕切られます。諸行事の中でも、子どもたちが「ほちよじ」を地区のどこかに隠し、大人たちがそれを探す「ほちよかくし」が特徴的です。

※開催日／成人の日頃(詳細はお問い合わせください)  
●指定別／県 ●種別／重要無形民俗文化財 ●所在地／福岡市八千穂(鍛冶屋地区)  
●指定年月日／令和3年3月19日

10阿弥陀種子板碑(1基)

頭部を山形に切り、その下の側面に2段の切込みを入れた板状の碑です。正面に大きく阿弥陀如来の種子(仏菩薩をあらわす梵字)「ナリーク」が薬研間形で刻まれています。その下には銘文が刻まれており、弘安9年(1286)に崩御された後醍醐天皇の皇后、安喜門院の百廿日に建立された供養塔であることがわかります。

●指定別／県 ●種別／重要有形文化財(考古資料) ●所在地／福岡市東田原1891  
●指定年月日／昭和48年3月9日 ●お問合せ先／悟真院

11妙徳山古墳(1基)

神積寺の境内にあり、直径約35m、高さ6m以上の2段構築の円墳です。全長約12.4mの横穴式石室は、市川流域にある古墳の中でも最大級のもので、出土した遺物から6世紀末頃につくられたと考えられています。

●指定別／県 ●種別／史跡  
●所在地／福岡市東田原1891-1  
●指定年月日／令和2年3月13日 ●お問合せ先／悟真院

12應聖寺庭園(905㎡)

本堂・書院の背山斜面を築山とし、山裾に細長い池をめぐらす池泉観賞式の庭です。宝永から元文年間(1704～1741)にかけて作庭された瑞光寺(多可郡多可町)の庭園と類似しており、この頃につくられたものと考えられています。

●指定別／県 ●種別／名勝 ●所在地／福岡市高岡1912  
●指定年月日／平成4年3月24日 ●お問合せ先／應聖寺

13七種山(39,500㎡)

『播磨國風土記』に「奈具佐山」と出ている山で、もとは金剛城寺があった境内地です。全山、石英粗面岩で形成され「金剛岩」「つぎ岩」「笠岩」などの巨石や、雄滝をはじめとした七種48滝が見られることも知られています。

●指定別／県 ●種別／名勝 ●所在地／福岡市田口702地  
●指定年月日／昭和44年3月25日 ●お問合せ先／福岡市観光協会

14阿弥陀堂(1棟)

三間三面の宝形造の建物です。堂の中に阿弥陀如来をまつことから、阿弥陀堂といわれていました。解体中に見つかった斗きょうの墨書から、享保3年(1718)に建てられたことが分かります。

●指定別／県 ●種別／有形文化財(建造物)  
●指定年月日／昭和51年4月1日 ●現在は解体保存されています。

15悟真院唐門(1棟)

神積寺の院の一つである悟真院の門です。総高4.5mで本瓦葺きで落着きがあり、唐門らしい剛健な風格を見ることがができます。江戸時代中期に建てられたと考えられます。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(建造物) ●所在地／福岡市東田原1905  
●指定年月日／昭和51年4月1日 ●お問合せ先／悟真院

16石造宝塔(残欠)(1基)

暦仁2年(1239)、一石で彫成された基礎と塔身のみの残欠で、笠を失っています。「尺迦仏滅後二千二百年」という、釈迦入滅後の年数が刻まれている仏滅紀年塔といわずらしいものです。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(建造物)  
●所在地／福岡市東田原1905 ●指定年月日／平成元年4月1日  
●お問合せ先／悟真院 ※見学は要問い合わせ。

17おかげ燈籠(1基)

おかげ参りは、江戸時代の伊勢神宮への集団参宮のことです。おかげ踊りは、文政13年(1830)のおかげ参りに関連して河内国で発生し、翌年の天保2年にかけて畿内を中心に流行しました。おかげ燈籠は「おかげ」など、おかげ参りに関連する銘文をもつ燈籠として知られており、市川流域まで「おかげ踊り」が伝播していたことを示すものです。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(建造物)  
●所在地／福岡市大貫2617 ●指定年月日／平成8年4月1日

18石造五如来坐像(5軀)

長目地区の薬師寺跡で藤田神社東の地にあります。台座正面に造立年月日寛永(1624)～貞享(1688)が、背面には村名と施主名が刻まれています。向かって、左から阿闍如来、阿弥陀如来、大日如来、薬師如来、釈迦如来が並んでいます。一石丸彫の坐像で、別石の蓮華座に坐ります。江戸時代前期に属する石仏として像容も優れています。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(彫刻) ●所在地／福岡市南田原578  
●指定年月日／平成元年4月1日

19神積寺本堂(1棟)

神積寺は播磨天台六箇寺の一つに数えられる古刹で、正暦2年(991)に慶芳上人によって開基され、一条、三条両天皇に篤い帰依をうけたと南北朝時代に成立した『峯相記』に伝えられています。本堂は本瓦葺きの入母屋造で建築年代については、建築様式から寺伝のとおり天正15年(1587)と考えられます。改造はあるものの、当初の形式をよく残しています。優秀な中世仏堂形式の仏堂であり、町内に現存する最も古い大規模仏堂として貴重な文化財です。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(建造物) ●所在地／福岡市東田原1891  
●指定年月日／令和5年3月23日

20石燈籠(1対)

2基どちらの竿の部分にも同じ銘文が刻まれており、北山田村(現姫路市)の助左衛門が両親の菩提を弔うために、天和3年(1683)に寄進したことがわかります。紀年銘をもつ石燈籠の中では、神崎郡内で最も古いものです。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(建造物) ●所在地／福岡市東田原1891  
●指定年月日／平成8年4月1日 ●お問合せ先／悟真院

21地界萬霊塔(1基)

地界とは真理の世界、全宇宙のことで、萬霊とはこの世の中の一切の生きもののこととされています。明暦3年(1657)の銘がみられるこの塔は、神崎郡内で最大にして最古の銘をもつ供養塔です。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(建造物)  
●所在地／福岡市山崎45-1  
●指定年月日／平成8年4月1日

22木造阿弥陀如来坐像(1軀)

福田地区の阿弥陀堂に安置されていた漆箔の寄木造の木像です。半丈六の像で堂々としたもので、像の下部には墨書銘があり、天正2年(1574)につくられたことがわかります。現在は本覚寺で保存されています。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(彫刻)  
●所在地／福岡市福田861  
●指定年月日／昭和51年4月1日 ●お問合せ先／本覚寺

23石造地藏菩薩像(1軀)

金剛城寺にある石仏で、三角形の板石の中央に地藏菩薩坐像が刻まれています。左側下方に「応永六年二月時正」(1399)の紀年銘があり、町内でも古い銘石仏の一つです。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(彫刻)  
●所在地／福岡市田口236  
●指定年月日／昭和51年4月1日

24石造地藏菩薩立像(1軀)

古墳時代の石棺蓋石を利用して地藏菩薩が刻まれています。一般的に石棺仏と呼ばれるもので、無紀年ですが南北朝時代のものと考えられます。像容は、右手に錫杖、左手には宝珠を持ち、雲座の上に立ちます。台座が蓮華座ではなく雲座であることは、大変めずらしいのです。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(彫刻)  
●所在地／福岡市東田原1 ●指定年月日／昭和51年4月1日

25木造文殊菩薩坐像(1軀)

像は蓮華座に坐り、その下には獅子がいます。年代は、像の特徴から南北朝時代の頃と考えられています。元は岩尾神社にあったと伝えられ、明治初年に神仏分離により神積寺へ移されたといわれています。(※神積寺外陣から見学可能。)

●指定別／町 ●種別／有形文化財(彫刻)  
●所在地／福岡市東田原1891  
●指定年月日／平成14年4月1日 ●お問合せ先／悟真院

26木造阿弥陀如来坐像(1軀)

神積寺にある仏像で、像高37.5cm、カヤ材の一本造です。平安時代中期(10世紀)の制作と考えられ、慶芳上人が神積寺を開基したと伝える時期(正暦2年(911))と近く、寺の創建にかかわる仏像の可能性がります。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(彫刻) ●所在地／福岡市東田原1891  
●指定年月日／平成30年3月22日 ●お問合せ先／悟真院

27銅造誕生釈迦仏立像(1軀)

應聖寺にある仏像で、像高14.1cm。銅鑄造(右手先から台座下まで銅の一鑄)で、作風から白鳳時代(7世紀後半)の制作と考えられます。本像は、兵庫県内で最も古い仏像彫刻の一つと位置づけられるとともに、福岡町における白鳳時代にさかのぼる仏像彫刻として、本町の美術史上貴重な遺品です。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(彫刻)  
●所在地／福岡市高岡1912 ●指定年月日／平成30年3月22日  
●お問合せ先／應聖寺

28妙法寺梵鐘(1口)

総高121cm、口径70cmの梵鐘です。銘文は、江戸時代の明暦2年(1656)に妙法寺の日蓮上人の依頼により、日蓮上人が誌したもので、文は弟子の元政上人が起草しました。梵鐘の鑄造者は京都釜座の有力な鋳物師である藤原国次です。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(工芸)  
●所在地／福岡市山崎843  
●指定年月日／昭和59年1月15日 ●お問合せ先／妙法寺

29つるべ(1個)

八反田組の大庄屋であった奥平家の屋敷跡の井戸から見つかりました。この家は寛延2年(1749)に起こった寛延一揆で打ちつぶしにあい、つるべはこの時に井戸へ投げ捨てられたものと考えられています。江戸時代の生活用品であり、姫路藩の大規模な一揆との関連を示す歴史資料です。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(歴史資料) ●所在地／福岡市西田原1038-12  
●指定年月日／平成元年4月1日 ●お問合せ先／神崎郡歴史民俗資料館

30固寧倉(1棟)

江戸時代、姫路藩では飢饉や災害に備えて、米や麦などを蓄えた固寧倉が各地でつくられていました。福田地区の固寧倉は、町内で唯一残存しているもので、福田大蔵神社鳥居西の地にありましたが、明治20年頃現在地に移築されました。

●指定別／町 ●種別／有形民俗文化財 ●所在地／福岡市福田861  
●指定年月日／昭和53年12月1日

31庚申塔(1基)

石の正面に、青面金剛をあらわす種子と「庚申塔」という文字が刻まれています。十干の庚と十二支の申を組み合わせた暦法の60日ごとに巡ってくる庚申の日に、庚申待という信仰行事が行われていました。

●指定別／町 ●種別／有形民俗文化財 ●所在地／福岡市高岡1963-5  
●指定年月日／平成8年4月1日

32絹本着色仏涅槃図(1幅)

縦220.0cm、横155.5cmの絹本着色の一幅です。袈裟には、元禄14年(1701)に應聖寺吉祥院の祐永が、近隣の村々から寄進を受けて制作させたいという銘文が残されており、蓋裏書には、昭和48年(1973)に修理が施されたことが記されています。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(絵画)  
●所在地／福岡市高岡1912 ●指定年月日／令和7年3月19日  
●お問合せ先／應聖寺

33絹本着色愛染明王図(1幅)

縦83.2cm、横35.4cmの絹本着色の一幅です。顔貌表現は忿怒の表情が抑え気味であり、火輪や宝珠の表現には形式化がみられ、全体的に穏当な作風です。抑揚が少なく硬い描線、大ぶりの文様、目の粗い画網を用い、金泥を多用することなどから、室町時代頃の制作と推測されます。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(絵画)  
●所在地／福岡市高岡1912 ●指定年月日／令和7年3月19日  
●お問合せ先／應聖寺

34紙本着色金剛界曼荼羅(1幅)

縦120.8cm、横121.4cmの紙本着色の一幅です。金剛界曼荼羅の中心部の成身会の一會のみを描いた金剛界八十一尊曼荼羅と呼ばれる形式のものですが、四隅に四大明王が三鈷杵に変更されて七十七尊構成になっているのが特徴です。江戸時代(18世紀)頃の作と推定されます。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(絵画)  
●所在地／福岡市高岡1912 ●指定年月日／令和7年3月19日  
●お問合せ先／應聖寺

福岡町

指定文化財ガイドマップ

Fukusaki Designated Cultural Property Guide Map

◎福岡町内指定・登録文化財のお問合せ先 ※お問合せ先の記載がない文化財につきましては、福岡町教育委員会 社会教育課文化財係までお問合せください。  
●福岡町教育委員会＝Tel.0790-22-0560 ●柳田國男・松岡家記念館＝Tel.0790-22-1000 ●神崎郡歴史民俗資料館＝Tel.0790-22-5699 ●福岡町観光協会＝Tel.0790-22-9056 ●本覚寺＝Tel.0790-22-0636 ●龍王寺＝Tel.0790-22-4215 ●應聖寺＝Tel.0790-22-1077 ●悟真院＝Tel.0790-22-0339 ●金剛城寺＝Tel.0790-22-0014 ●妙法寺＝Tel.0790-22-1088 ●熊野神社＝Tel.0790-22-0586

■発行／福岡町文化協会 〒679-2212 兵庫県神崎郡福岡町福田176-1 TEL.0790-22-3755

35紙本着色天台大師入定図(1幅)

縦115.7cm、横72.3cmの紙本着色の一幅で、天台大師智顗の入定を描いた図で、右下色紙形に貞享3年(1686)の年紀と山門(比叡山)東塔院より寄附されたことを示す銘があります。「廣澄」と記述され、朱文方印で「具慶之印」の落款もあることから幕府御用絵師の住吉具慶(1631～1705)の作であることが判断できるものです。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(絵画)  
●所在地／福岡市高岡1912 ●指定年月日／令和7年3月19日

36壺棺<A>(1個)

山崎地区の通称「七面山」の山麓部分から発土しました。弥生時代後期のものと考えられ、中から幼児のものと考えられる人骨が見つかりました。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(考古資料) ●所在地／福岡市西田原1038-12  
●指定年月日／昭和47年1月12日 ●お問合せ先／神崎郡歴史民俗資料館

37壺棺<B>(1個)

辻川地区の通称「辻川山」西麓部分から発見されました。弥生時代後期のものと考えられます。

●指定別／町 ●種別／有形文化財(考古資料) ●所在地／福岡市西田原1038-12  
●指定年月日／昭和47年1月12日 ●お問合せ先／神崎郡歴史民俗資料館

町指定文化財